

TSR企業情報を用いた研究成果発表

2025年 2月14日 (金) 15:00~16:50

参加
無料

講演内容

15:00~15:05 開会挨拶

15:05~15:55 地域金融機関の合併が企業に与える影響

東京大学公共政策大学院 院長・東京大学大学院経済学研究科 教授
川口 大司 先生

企業間取引ネットワークが経済活動において重要である一方、その形成過程は十分に理解されていません。本研究では、金融機関がネットワーク形成に果たす役割を明らかにするため、地方銀行の合併をケーススタディとして分析しました。企業間取引や銀行との関係を記録した詳細なTSRデータを用い、合併後の影響を検証した結果、合併銀行を通じた企業間の新規取引が増加することが確認されました。この成果は、金融機関が取引ネットワーク形成において重要な役割を果たしていることを示しています。



川口 大司 先生

15:55~16:45 日本企業の生産性の変遷と制度・政策の役割

東京大学大学院経済学研究科 兼 公共政策大学院 教授
金融教育研究センター長 植田 健一 先生

コロナ禍（2020年度）に行われた民間銀行からのいわゆるゼロゼロ融資は、100%の公的な信用保証（保証料ゼロ）に加え、金利負担が3年間国により肩代わりされゼロとなるもので、借り手である中小企業には非常に寛大なものでした。一方、貸し手の銀行にとっても、リスクゼロで金利が国から支払われるという非常に儲かる融資制度だったと言えます。しかし、ゼロゼロ融資を利用した企業の倒産が最近相次いでおり、ゼロゼロ融資にける貸出先の選別について懸念されます。

本研究はゼロゼロ融資における銀行の貸出行動と借入企業の返済状況について分析しました。その結果、銀行はコロナ以前に既に高リスクと知られていた企業への融資をより承諾していたことが分かりました。また、ゼロゼロ融資の利用は、金利が高い県の方が多く、そして、元々高リスクの企業や高金利の県の企業の方が、ゼロゼロ融資の返済が予定通り進んでいないことが明らかになりました。この結果は、ゼロゼロ融資において、制度設計通り、銀行が利益を優先して貸付を行っていたことを示しています。それはとりもなおさず、元々高リスクのため、それまであまり融資がされなかった企業に大きく資金が動いたことを示しています。この制度はその意味で貸出先の適切な選別を妨げたものと言えます。



植田 健一 先生

16:45~16:50 閉会挨拶

会場

東京大学 本郷キャンパス内
伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
東京都文京区本郷7-3

定員

390 名様

お申し込み方法

お申し込み締め切り：2月13日（木）正午

※お申し込みには、EventRegistへの会員登録（無料）が必須となります

① 以下のURLまたは二次元バーコードにアクセスし、セミナー申込ページにお進みください。

https://go.tsr-net.co.jp/SeminarRegist_2942_20250214

② ページ上部にある「申し込む」ボタンをクリックしてください。

③ EventRegistへのログインページに遷移しますので、「新規会員登録（無料）」をクリックし、EventRegist会員登録を行ってください。（EventRegist会員登録済の方はログインしてください。）

④ セミナー申込者情報、参加者情報を入力し「オーダーを確定する」をクリックしてください。その後、受講票が発行されますので、当日は忘れずにご持参ください。

